

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均
設長	8.9	8.9	11.8	12.7	14.6	15.8	9.6	11.6	10.9	12.5	11.1	12.1	10.6	11.5 <sup>0.7</sup>
設巾	5.8	5.2	7.0	8.2	7.8	7.4	6.7	7.9	6.8	7.6	7.6	6.7	7.7	7.1 <sup>0.1</sup>

在来種の大きい分を測定した結果は下表の通り。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	平均
設長	10.3	8.8	8.5	7.4	4.6	6.4	6.8	6.9	10.1	7.9 <sup>0.0</sup>
設巾	8.9	4.0	5.2	4.3	3.7	5.9	5.6	6.9	7.9	5.8 <sup>2.0</sup>

## 5 考 察

1952年12月下旬当時の大島分場経由で宮城県産牡蠣種苗（本試験用母介と産地は同じ）を入れ、53年1月大宜味村塩屋湾（本試験実施場所と同所）で筏に墾下して養成し53年11月24日（種苗移入より12ヶ月にして本試験と同期間経過）に1連当について測定した結果は下表の様な成長を示めた

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
設長	8.9	11.8	8.4	9.2	11.5	10.0	2.7	10.0	8.0	9.1	6.7	10.4	10.0 <sup>0.0</sup>
設巾	6.5	8.0	5.5	7.8	6.1	5.9	3.5	5.3	4.9	5.1	6.1	5.7	5.7 <sup>0.0</sup>

上表と今回の現地に於ける天然採苗分の養成結果を比較するに成長度に於いて略同様の結果を示し何等遜色がない。然しながら種苗の附着率は在来牡蠣がはるかに多く此のため採苗所要諸経費に比して結果は未だ良好とは言えないので将来人工採苗と相俟つて良結果に導き度い。

## (6) 指 導、調 査、講 習

### (4) 養貝適地調査

#### 1. 目 的

屋部村ウムサ部落地先浅海に於ける養貝適地調査

#### 2. 期 日

56年8月10日

#### 3. 状 況

屋部ヶ落の東側を流れる東屋部川は部落の西側を流れる西屋部川の両川は海への出口の所で合流し、海に入つては堤防と波浪による砂礫、砂の堆積等の関係で流の方向を東に変えウムサ部落地先を洗うようにして流れている。該地先の川水の影響を受ける所は砂礫や濁混りの砂質であるが、大部分は細砂で二枚貝

の潜居棲息も可能の固さと思われる。距岸500米位の所に岩礁があり、此の周辺まで遠浅で干潮時3尺以内の水深で、比重2.356(距岸500米の位置)砂20:泥1の底質であった。今回は屋敷・落に於ける淡水養魚指導係との短時間内の踏査で不充分であるが、常時干涸しない筈や、比重が条件に於て、泥分は少いが河水によつて栄養分が搬入せられる等で浅鯛、蛤等の棲息も可能ではないかと思われた。

#### (四) 浅鯛、蛤移殖地調査

##### 1. 目的

経済局水産課の浅鯛、蛤移殖計画に依り之が適地調査を実施した。

##### 2. 期日

1957年6月25日～28日、4日間

##### 3. 羽地内海概観

羽地内海は北に屋敷地島、東に奥武島、南に羽地村、西に今帰仁村に依つて圍繞され北西より南東に長く南部が膨大し茄子型になつている。四面陸地に圍繞される為季節風や颱風の影響を受ける事が比較的少く且真喜屋、仲尾地、具我、湯川の各川の外数多の小川が同湾に淡水を注入している。同湾東部は奥武島を挟んで東支那海に接し、西部は屋敷地と今帰仁村とにより海峡をなして北伸し東部同様東支那海に通じ、為に潮流よく潮汐の停滯する事がない。海底面は湯川、具我側寄りに深く北部、及東部の大部分(約内海に当り最干潮時0～5米位の浅所)が遠浅平坦である。底質は礫、砂、泥等の内二者又は三者或は単一の割で形成されている。既述有用貝類としてはニッコウガイ2種、イナミガイ2種、ヒシガイ、ザルガイ、リノウキユウサルボウ、リノウキユウヒメアサリ、オキシジミ等の2枚貝があり、害敵としては巻貝のヘンクリガイがあるが、稀であつて之による死貝はサクナ島近くで1個しか見当らなかつた。以上を要約すると次の通りである。

(イ) 波は静かで潮汐は良く流通し淡水が注入する。

(ロ) 海底は平坦で底質は浅鯛、蛤に適する場所がある。

(ハ) 水深は浅割、蛤養殖場として良位置があり且干満差は甚しくない。

(ニ) 塩分は外海より薄く浅鯛、蛤に適する。

##### 4. 調査結果

###### ① 屋敷地村南部地先について

###### ア 概観

同地先は羽地内海の一部を形成し、前述要約欄の性格を具備し、遠浅で般

底干潮時0~5米位の平坦が西部より東部にかけて広大であり、同内海の約  
 5位を占める。

b 我部地先(ルシ崎より鯉平名部落突端地先)

(i) ルシ崎よりサクナ島まで

此の間地先は今井仁村と接近し海峡をなし地質狭小で底面傾斜し急深となる  
 ため蔦付面積は少ない。アジモ様のものが生えている。

比重2465 砂6:泥4、黒色層厚く細砂。

(ii) サクナ島より鯉平名地先突端まで

サクナ島より東部へ向い平坦底面展開し遠浅である。陸地より2条の小川が  
 淡水を注入している。

比重2379 砂6:泥4 黒色層厚く細砂

c 鯉平名地先

底面平坦遠浅で広大である。鯉平名側に泥土や、多く両側及東側にや、砂が  
 多い。

観測点	比 重	底 質	備 考
イ	2447	砂6 : 泥4	底質黒色層厚く細砂
ロ	"	77 : 23	"
ハ	"	88 : 12	"
ニ	"	99 : 1	砂粗い。

前述の地先に於ける棲息介藻類は殆んど同種でニツコウガイ、ヒメニツコウ  
 ガイ、イナミガイ、ソスジイナミガイ、オオソジミ等の貝類とアジモ様菌類  
 がある。

d 我部地先

底面は平坦遠浅で面積もつとも広大な部分を占めているが概して砂が粗い。

比重2402 砂7:泥3

◎ 済井出地先について

屋我地島の東北側で北西より南東に直線状に伸びる処の地先の遠浅平坦であ  
 る。概して砂は粗くて多く且泥分に乏しく冬季、節風の影響を受ける事が大  
 きい。比重21705 砂95:泥05

◎ 羽地村真喜屋及仲尾次地先

◎ 羽地村真喜屋及仲尾次地先

奥式橋以北は粗砂多く且東支那海に面し冬季の季節風の影響を受ける事が大  
 きい。橋以南は仲尾次、真喜屋の各川からの浮泥の影響を多分に受け、泥多  
 く堆積している。